

おおもとウィメンズクリニック Vol.17 17周年記念版



17周年に際して

院長 大本裕之

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、依然感染は続きますが、世の中は変わりました。産婦人科医になって45年、かつてB型肝炎、AIDS、ATLなど未知な感染症に対する母児への偏見と謂れない差別を見ました。コロナも然り、多くの犠牲の上に現在のあることを忘れてはならない。当院も本来の診療に戻ってきましたが、今後もクリニックスタッフの健康を守り、患者様に不安のない診療ができるように医療体制・対策は引き続きとっていきます。HPV関連がんなかで代表的な子宮頸がんの予防ワクチン（HPVワクチン）のキャッチアップ制度は2024年9月までに開始しなければ終了予定のため啓蒙が急務です。今年度子宮頸がん検診から一部の自治体では、年代によってHPV検査（ウイルス検査）が組み込まれることが言われています。新たな国の施策が始まり、診療内容も変わってきます。さらにマイナンバーカードによるオンライン資格確認の普及、電子処方箋などがクリニックに求められています。新たな診療にも十分答えられるように引き続き医療体制を整え、良質な医療とサービスを提供いたします。

開業医18年目の自分

副院長 大本佳恵

新型コロナウイルス感染症も5類となり、インフルエンザと同様の扱いになって徐々にコロナ高前の日常に戻りつつあるも、まだまだマスクと縁が切れる日は想像できません。

私の体調不良で突然外来を休診になることが多かったここ数年でしたが、ほぼ休まず午前外来診療する事が出来るようになりました。やはり診療する、クリニックで仕事をする事は私の生き甲斐なのだ痛感しています。ただ生身の人間なので不安もありますが、今の勢いで頑張っていきたいと思えます。今年でクリニック開業して18年目。スタッフも5,10,15年目をクリニックで迎え、苦楽を共にして頑張ってくれた仲間がいます。本当に心から感謝しかありません。今後もオールスタッフでこのような嬉しい節目を繋げたいと思ってやみません。私も開業当初は終日外来を通常業務として診療に当たる予定でした。17年経ってやっと午前診療だけできる自分がいます。想定外の事です。その間様々な辛い経験や病気、手術などあり患者様には多大なご迷惑をおかけしました。ただその経験が今の私の診療のプラスになり、決して無駄な時間ではなかったと日々感じ、患者様の身体だけではなく心にも更に寄り添える仕事が出来ていれば本望だと感じています。

先の事は誰にもわかりません。でも一日一日を大切に、自分も楽しく患者様に貢献できる診療に邁進していく所存です。また今年で6年目を迎えるI/Fふくやまのラジオ出演（毎月第3金曜日10時40分過ぎ〜）も更にバージョンアップした話題を提供できればと考えています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

祝 連続受賞

2023年福山市明るいまちづくり協議会主催の第55回ばら花壇コンクールが行われ

バラの花部門 ばら花壇大賞

を受賞いたしました。

ますます、ばら育成に励みます。



〒720-0830 福山市水呑町三新田2丁目27



TEL: 084-920-5155

http://ohw.jp

2023年度 クリニックのデータ

2023年は新規登録患者様 639人、のべ 9799人の患者様に来院いただきました。コロナ感染症は感染症法上の位置付けが5類感染症になり世の扱いは変わりましたが、引き続き感染予防対策を図った診療でした。その中でも多くの患者様に来院頂きました。毎年、気持ちを新たに地域医療におけるクリニックの役割・責任を思い、診療していく所存です。

子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など良性疾患の多くは倉敷成人病センター様の腹腔鏡下手術により患者様の QOL を保ちながら治療がなされました。悪性疾患は福山医療センター、福山市民病院、中国中央病院、倉敷成人病センター様などと病診連携をはかりました。子宮頸部上皮内腫瘍；高度異形成 21名、子宮頸癌 2名、子宮体癌 6名、卵巣癌 3名、巨大卵巣腫瘍 1名、肺癌 1名の患者さまの迅速な診断がその後の適切な医療を受けて頂ける端緒となることが出来ました。子宮頸癌は一次予防として、子宮頸癌予防ワクチン（HPV ワクチン）の国の積極的勧奨の再開、キャッチアップ制度により接種者は急増しました。しかし、キャッチアップ制度は 2024年9月までに開始しなければ終了予定です、啓蒙が急務です。

不妊症に対しては子宮卵管造影検査を 30名に行い、排卵誘発、タイミング法、人工授精までしか扱っていませんが、ストレスが大きくなるような診療に配慮しています。高度生殖補助医療は指定医療機関様と連携を図り、よい成績を収めています。

LEP製剤（低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬：月経困難症治療薬およびピル）は月平均 386シート処方昨年と同程度でした。他の選択肢としてジェノゲスト処方、子宮内黄体ホルモン放出システムも増加し、女性の生活改善に役立っています。



スタッフより

（看護師）気がつけばクリニックに一員となり 15年、節目の年です。私は産科婦人科の看護師になりたくて子育てをしながら資格を取りました。産科で8年、ここで15年、多くの患者様との出会いがあり、嬉しいこと、大変なこともありましたが、やはり婦人科、おおもとウィメンズクリニックが大好きです。婦人科のことは任せてください、『婦人科のエキスパート』を目指して日々精進して参ります。

（看護師）皆様に支えられ、クリニックの一員なり5年目を迎えたことに感謝しています。新年早々暗いニュースを目にしました。一瞬にして当たり前前の日常が奪われる。当たり前で当たり前でない日常に感謝し、心を育てていく一年にしたいです。

（看護師）新しくクリニックの一員になりました。初めての分野で戸惑うこともあります、一緒に働く皆さんの優しい教えのおかげで日々学ぶことの多い、充実した毎日です。患者様に寄り添う医療を提供できるよう、そして、安心して頂ける看護師になれるように成長していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します

（医療事務）コロナ禍も少し落ち着いて、以前の日常が戻ってきつつあることを嬉しく思います。クリニックには新しい仲間も増え、気持ちも新たな毎日です。今年も患者様が安心して受診して頂けるクリニックであるよう日々努めて参ります。本年もよろしくお願い致します。

（医療事務）昨年10月からクリニックの一員になりました。仕事を覚えることで一杯の毎日ですが、患者様に安心して頂けるよう、心がけていきたいと思っております。